



Fig. 2. Flower of the type specimen of *Anemone pseudo-altaica* var. *katonis*.

### キレハハナウドとベニバナオオハナウド (大場秀章)

Hideaki OHBA: Intraspecific taxa of *Heracleum sphondylium* L. and *H. lanatum* Michx. (Notulae ad plantas Japoniae 6)

ハナウド属では葉の切れ込みの変異は広いが、明らかに他とは異なり 2 回羽状深裂でさらに裂片が不規則に切れ込む個体を加藤信英氏が山形県で見いだされた。これは葉の切れ込み方で、中国の甘肅、四川両省から報告された *Heracleum dissectifolium* K. T. Fu に似ているが、果実は楕円形で油管が 2 本しかない点で異なる。一応別植物と考え、オオハナウドの品種として記載する。ホソ

バナウドも裂片が切れ込むが、ハナウドの変種と考えられる。キレハオオハナウドの和名を提唱する。

オオハナウドの花はふつう白色だが、紅紫色の個体が北海道見能取で見出され、これに *Heracleum dulce* f. *rubriflora* という学名を原 寛先生は準備したが、発表には至らなかった。これにはベニバナオオハナウドの和名を提唱する。

ハナウド属は幅広い変異を示す。特に、北半球に広く分布し日本産の植物とも関係する *Heracleum sphondylium* L. の分類については数多くの問題が残されている。日本におけるこれまでの研究は、ハナウドとオオハナウドを同一種または別種とするか、さらにどの学名が妥当かに集中してきた。しかし、*H. sphondylium* との比較は一度もされていない。

ハナウド、オオハナウドとも *H. sphondylium* に関連する植物である。特に、*H. sphondylium* はハナウドに近く、別種として区別できない。ただ、十分に生長した葉ではハナウドの方が *H. sphondylium* よりも裂片の幅が広いので、ハナウドを *H. sphondylium* の変種と見るのがよいと考える。

オオハナウドはこれまで指摘されてきたようにハナウドと葉の切れ込み方が異なる。*H. sphondylium* には日本のハナウドに対応する subsp. *sphondylium* と、オオハナウドに対応する亜種、subsp. *montanum* (Schleich. ex Gaudin) Briq. が東ロシアから中部ヨーロッパ、さらにシリアと南スペインにある。この subsp. *montanum* は、カムチャカからアラスカを経て東はニューファンドランド、南はカリフォルニア、さらにコロラド、テネシー、ノース・カロライナにかけて分布する *H. lanatum* と区別することはむずかしい。Mabberley (1987) は、*H. lanatum* を *H. sphondylium* subsp. *montanum* と同じとしている。中国における変異の解析が待たれるが、それまでは Mabberley の見解に従い、オオハナウドを *H. sphondylium* subsp. *montanum* として、上記の品種を記載した。

最後に材料を提供して下さった加藤信英氏にお礼申し上げる。この報告には平成4年度環境庁地球環境総合推進費試験研究委託費を用いた。

*Heracleum sphondylium* L., Sp. P1.: 249 (1753).

Subsp. *sphondylium*.

Var. *nipponicum* (Kitag.) H. Ohba, comb. nov.

*Heracleum nipponicum* Kitag. in Rep. Inst. Sci. Res. Manch. 2: 274 (1938).

*H. lanatum* Michx. var. *nipponicum* (Kitag.) H.

Hara, Enum. Spermatophy. Jap. 3: 310 (1954).

Japanese name: Hanaudo.

Var. *tsurugisanense* (Honda) H. Ohba, comb. nov.

*Heracleum tsurugisanense* Honda in Bot. Mag. Tokyo 57: 108 (1943).

*H. lanatum* Michx. var. *tsurugisanense* (Honda) H. Hara, Enum. Spermatophy. Jap. 3: 311 (1954).

Japanese name: Tsurugihanaudo.

Var. *akasimontanum* (Koidz.) H. Ohba, comb. nov.

*Heracleum akasimontanum* Koidz. in Acta Phytotax. Geobot. 8: 54 (1939).

*H. lanatum* Michx. var. *akasimontanum* (Koidz.) H. Hara, Enum. Spermatophy. Jap. 3: 310 (1954).

Subsp. *montanum* (Schleich. ex Gaudin) Briq. in Schinz et R. Keller, Fl. Schweiz, ed. 2, 1: 372 (1905). Mabberley, Pl. Book: 271 (1987).

*H. lanatum* Michx., Fl. Bor.-Amer. 1: 166 (1803). H. Hara, Enum. Spermatophy. Jap. 3: 310 (1954).

*H. lanatum* subsp. *asiaticum* Hiroe in Acta Phytotax. Geobot. 14: 4 (1949).

*H. lanatum* var. *asiaticum* (Hiroe) H. Hara in J. Fac. Sci. Univ. Tokyo, Bot. 6: 92 (1952), in adnot.

Japanese name: Hosobahanaudo.

Form. *dissectum* H. Ohba, f. nov.

A typo foliis bipinnatifidis lobis irregulariter dissectis defert.

Type: Japonia. Honshu: Collibus australibus prope Kuretsubo oppidi Atsumi in Yamagata Praefectura. Shin'ei Kato s.n., Junio 15, 1991 (TI).

Form. *rubriflora* H. Ohba, f. nov.

A typo floribus roseis differt.

Type: Japonia. Hokkaido: Bairagi oppidi Noutori in provincia Kitami. Hiroshi Tomooka s.n. Julio 5, 1936 (TI).